

「新しいニキビの治療薬」

かつて、ニキビ(正式な病名は「尋常性ざ瘡」といいます)は、10代の男女によくみられた症状ですが、不規則な生活習慣、睡眠不足、ホルモンバランスの異常、誤った洗顔や化粧により、20代以降の女性にもしばしばみられるようになりました。ニキビは主に顔面に発症し、重症化すると傷跡やしみを残すこともあるため、本人にとって心理的に影響の大きい病気です。

従来は、イオウ製剤や抗生物質含有軟膏の外用、抗生物質の内服が国内における標準的な治療でした。しかし、9月に、「アダバレン」という、新しいタイプの外用ニキビ治療剤が日本でも保険の適応対象となり、効果が期待されます。

ただし、使用時に、乾燥感や刺激感などが生じることがありますので、使用にあたっては、皮膚科専門医の診察・指導を受けられることをお勧めします。

平成 20 年 12 月

土居 敏明